

July 20, 2021

KYOTOGRAPHIE 2021 「インフォメーションセンター」 セノグラフィーデザイン 優勝者

辨野翔太郎 Shotaro Benno

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2021 では「BASE (Bank for Art Support Encounter)」に関連する新しい試みとして、「インフォメーションセンター」のセノグラフィーデザイン(空間デザイン)案を募集いたしました。

この度、7月14日に最終(二次)審査会を行い、公募者から選出された3名の一次選考通過者、辨野翔太郎、Andrea Pompili、小寺磨理子の中から、辨野翔太郎を優勝者に決定いたしました。

「インフォメーションセンター」とは、毎年写真祭の開催期間中、NTT西日本 京都支店 三条コラボレーションプラザに設置されるコミュニケーションハブです。今年は、来場者の皆様にフェスティバルをより楽しんでいただけるよう、「インフォメーション ラウンジ&ブックス (INFORMATION Lounge & Books)」に改名しリニューアル、公募により選出されたデザイナーと一緒に空間を創り出します。チケットやグッズ、アート写真集の販売や来場者への案内、ポップアップ展示等に加え、フェスティバル全般に関する情報の発信地、そして本部として機能するハブが誕生します。どうぞご期待ください。



July 20, 2021

辨野翔太郎 Shotaro Benno
コンセプト:「かたち」から生まれる場



<最終審査時点のイメージ図>

審査員によるコメント

ファサードにインパクトを持たせ、奥まっではいるが多くのサービスを提供するポテンシャルの高い室内へと、来場者を退屈させることなく誘う工夫が感じられた。インフォメーションセンターとして予定されている多くの機能もしっかりスタディされていて、来場者とスタッフが円形の空間を交差して有機的に交わる姿が想像される。予算が限られているため安価で効果的な素材選びが期待される。

—— KYOTOGRAPHIE 共同創設者／共同代表
ルシール・レイボーズ & 仲西祐介

July 20, 2021

選定おめでとうございます。一次提案時はややイメージが先行しているのではと考えていた
が、二次提案にてしっかりとした具体的な提案にまとめられており、特にエントランス外部のデザ
インから内部什器に至るまで、センター全体に対してのデザインコントロールが行われていること
に評価があったと思います。今後は選定された提案を元に、予算の振り分けをうまく調整しなが
ら提案の背骨がぶれないようにまとめていかれることを願っております。今後も期待しておりま
す。

—— 遠藤克彦(遠藤克彦建築研究所 代表)

インフォメーションセンターの機能として高揚感を煽り、またテーマを伝える装置としての役割が
あるので、最終選考に残った3案の中ではテーマとの連動性やフェスティバル特有のアイコニック
な空間構成の突き抜け感という意味では頭一つ抜き出していた印象を強く受けました。コストという
条件下の中でいかに実施レベルで着地させていくかという課題は大きいですが、施工者も含め、
関係者にチャレンジしたいと思わせるデザインの吸引力はあると思いました。

—— 小西啓睦(miso代表)

辨野翔太郎(Shotaro Benno)

1993年北海道生まれ。2019年より個人事務所主宰。
個人での設計活動をベースに現在は陶芸家、美術家、ファッションデザイナー、農家、住職など
様々な分野との協働によるプロジェクトに取り組んでいます。
